

地域医療連携室だより

～ 第 9 号 ～

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室 室長 挨拶

青葉が目に眩しい季節となりましたが、貴院におかれましては益々御盛栄のこととお喜び申し上げます。

「地域医療連携室だより」を発刊して今年で 3 年目になりますが、今回も新しく赴任された医師 10 名と看護部長の紹介をさせていただきます。新メンバーもそれぞれの診療科、部署において目標を持って頑張っておりますので、これまで同様よろしくお願い申し上げます。

さて、当院は「急性期病院として地域連携を強化し、信頼される病院」を目標としており、今年度は以下の取り組みを行っています。

① 内科二次救急枠の拡充

5 月 8 日より、(土)(日)(祝)以外に(月)(金)の内科二次救急を開始し、救急診療の充実を図っています。

② ハイケアユニット(HCU)の新設

二次救急診療拡充に伴う重症患者増加に対応するために、今夏の HCU 新設計画を進めています。

③ 患者送迎バス運行開始

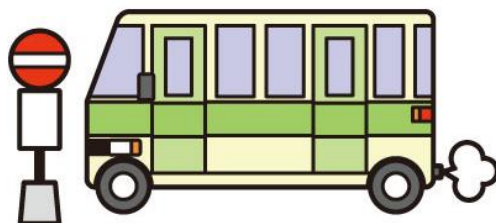
淀川区内を東西に結んでいたバスが廃止されたこと等により、患者さんの通院の利便が低いと言われております。このことを解消するために送迎バスの運行を 7 月頃に開始する予定です。

地域医療連携室ではこれらの病院の取り組みに十分対応し、今まで以上に受入れ支援、退院支援、広報活動、患者さん支援に重点を置きながら活動していく所存ですので、ご要望やご質問があれば地域医療連携室までお寄せ頂ければ幸いです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室長 倉井 修 副院長



新任医師紹介

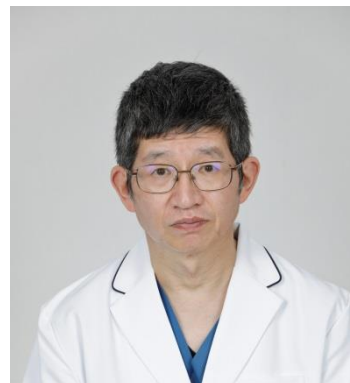
<麻酔科>

十三市民病院麻酔科に赴任して

本年 4 月より十三市民病院麻酔科部長として赴任いたしました小田 裕（おだ ゆたか、1985 年大阪市大卒業）です。

3 月までは 6 年間、大阪市立総合医療センターで勤務しました。こちらに来て感じたことは、「医師・看護師・事務方を含め、皆仲が良い」ことです。

さて当麻酔科は手術の麻酔が主な仕事ですが、私は総合医療センター時代から、「緊急手術の麻酔依頼を決して断らない」をモットーに努力して参りました。この方針はこちらに来て変わりません。「十三に患者を送ったら、すぐ手術をして返してくれる」という評判が周りの医療機関により広く定着すると、様々な施設の先生からの紹介も多くなり、地域とともに大きく発展することができると思います。「緊急手術をお待たせしない」を基本方針にこれからも頑張る所存です。何卒宜しくお願い申し上げます。



麻酔科 小田 裕

<小児科>

初めまして。この 4 月から大阪市立十三市民病院小児科に赴任しました齊藤三佳と申します。

愛媛県出身で、平成 5 年に香川大学を卒業し、同年に大阪市立大学医学部附属病院小児科医局に入局しました。大阪市立大学医学部附属病院・大阪市立総合医療センターで小児科一般・新生児の研修を経て、淀川キリスト教病院に 3 年間勤務し、再度大阪市立大学医学部附属病院にもどり、そこで研究医・大学院生・講師として勤務していました。

小児科専門医・新生児専門医を取得し、また大学院では超低出生体重児の肺の研究を行っておりました。また私事ではありますが、4 人の子育て中であり、あと 2 年で長女が成人式を迎えます。



小児科 齊藤 三佳

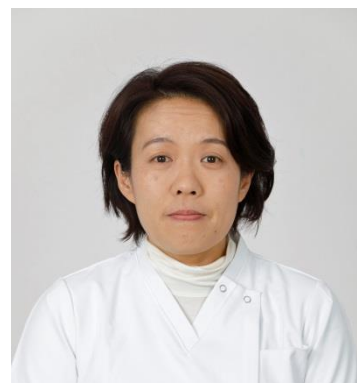
微力ではありますが、地域の先生方と連携させていただきながら、よりよい医療、求められる医療が提供出来、地域に貢献出来たらと思っています。よろしくお願いいたします。

<整形外科>

この度十三市民病院へ赴任させていただきました井代愛と申します。

平成 16 年高知医科大学を卒業後、岡山済生会総合病院で初期研修をさせていただき、岡山大学整形外科教室に入局、骨折を中心とした外傷整形外科を専門としております。平成 26 年大阪市立大学救急医学教室に所属、平成 27 年から大阪市立大学整形外科に入局させていただき、現在に至っております。

四肢骨折治療を専門としておりますが、これからは足部を中心とした下肢について、慢性疾患も含めて勉強を広げ、深めていきたいと考えております。また本年、日本リハビリテーション学会臨床認定医を取得し、急性期から慢性期まで治療を計画、実行できるよう努力していく所存でございます。



整形外科 井代 愛

開業医の先生方にはいつも大変お世話になり、ありがとうございます。患者さんにも先生方にも信頼していただき、ご相談をしていただけるような医療が提供できるよう精進いたします。御指導ご鞭撻のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。

<消化器内科>

このたび 4 月より消化器内科医長として赴任致しました、川村悦史と申します。

私は 1999 年に川崎医科大学を卒業した後、同年大阪市立大学医学部第 3 内科学へ入局し、研修修了しました。2005 年、同大学院にて医学博士取得、以降、博士研究員、後期臨床研究医を経て、2011 年以降、同肝胆膵病態内科学病院講師として大阪市の肝臓病の地域医療、臨床研究、基礎研究に携わってきました。消化器内科(特に肝胆膵領域)を専門とし、引き続いて地域基幹病院で common disease から専門性の高い疾患まで診療を行いたいと考え、当院での勤務を希望しました。



消化器内科 川村 悦史

専門分野では C 型慢性肝炎に対する経口抗ウイルス治療(DAA 製剤)、B 型慢性肝炎に対する核酸アナログ製剤、肝臓の診断～局所治療、進行した肝硬変に対する腹水、肝性脳症、痒みの治療、胆膵癌に対する抗がん剤治療などを提供したいと考えております。先生方との診療連携を強化し、地域医療に貢献することが患者さんの期待に応えることにつながると思います。どうぞよろしくお願い致します。

<外科>

平成 29 年 4 月より十三市民病院外科に赴任いたしました李 友浩と申します。

平成 14 年に国立三重大学医学部を卒業し、大阪市立大学医学部腫瘍外科に入局しました。大阪市民病院機構には 2 年ぶりの配属となり、大阪市立総合医療センターでは食道癌、胃癌、大腸癌などの腹腔鏡手術を勉強させていただき、その後市立柏原病院にて腫瘍外科、一般外科に携わってまいりました。

地域の患者さんに信頼されるよう地域医療を担う先生方とも連携を取らせていただきながら、患者さん一人ひとりにあった治療ができればと考えております。

何卒よろしくお願い申し上げます。



外科 李 友浩

<呼吸器内科>

平成 29 年 4 月より十三市民病院 呼吸器内科に赴任いたしました橋本昌枝と申します。

平成 24 年に近畿大学医学部を卒業し、堺市のベルランド総合病院で初期研修を行い、その後も呼吸器内科医として勤務しておりました。呼吸器内科は肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺結核、肺癌等、多種多様の疾患があり、いずれも長期的な治療やフォローを要する診療を行います。

患者さんとお話しながら患者さんに寄り添った診療に携わることができる科だと考え、呼吸器内科を専攻いたしました。まだまだ未熟者で至らぬ点もあるかと存じますが、地域の患者さんや地域の先生方のお力になれるよう邁進する所存です。御指導、御鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



呼吸器内科 橋本 昌枝

<外科>

初めまして。平成 29 年 4 月より十三市民病院外科シニアレジデントとして赴任しました南原幹男と申します。平成 21 年に奈良県立医科大学を卒業し、大阪市西区の多根総合病院にて 2 年間の初期臨床研修を行いました。研修 2 年目の 2 月には 1 か月間のみではありますが、青森県深浦町にて僻地医療を学びました。2 月の雪深い季節での研修でしたが指導医の先生の情熱を肌で感じ、寒さを感じる暇もなく往診などに走り回っていました。その後、多根総合病院外科にて 3 年間の後期研修を経て、大阪市立大学の第一外科に入局致しました。大学病院にて高難度手術を学び、その後は 2 年間堺市の馬場記念病院にて勤務しておりました。現在まで大学病院での 1 年間を除き市中病院にて研修し、またいずれの病院も救急診療を得意とする病院でした。よって十三市民病院ではその経験を活かし、救急疾患への迅速な対応などを目指し尽力していく所存であります。

まだまだ若輩であり至らぬ点もあるかと存じますが、少しでも良質な医療を提供できるように精進いたしますので、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



外科 南原 幹男

<外科>

平成 29 年 4 月より大阪市立市民病院の外科へ赴任致しました江口真平です。

平成 26 年に福岡大学を卒業後、済生会千里病院・大阪市立大学病院で初期研修終了後、大阪市立大学病院 腫瘍外科へ入局しました。大学では専門性の高い疾患を経験させていただいておりましたが、地域基幹病院で common disease から専門性の高い疾患まで幅広く経験 をしたいと考え、当院での勤務を希望させて頂きました。

少しでも地域医療に貢献出来る様、精進してきたいと思ひます。何卒よろしくお願ひいたします。



外科 江口 真平

<呼吸器内科>

平成 29 年 4 月から赴任しました呼吸器内科レジデントの島津葉月と申します。

出身は和歌山県有田市で、豊かな自然とみかんの木に囲まれて育ちました。

平成 26 年に兵庫医科大学を卒業後、和歌山県立医科大学医学部附属病院で臨床研修を行いました。ローテート中に抗がん剤の研究・開発がめざましいこと、そして呼吸器内科学の疾患の多様性を知り、今後専門的分野だけではなく地域医療や家庭医を志す私にとって大変魅力的であり、呼吸器内科学を専攻するに至りました。平成 28 年より呼吸器内科前期研究医として大阪市立大学医学部附属病院で1年間勤務後、common disease や一般内科疾患を経験したく当院での赴任を希望しました。未熟な点ばかりですが、謙虚な姿勢で初心を忘れることなく診療にあたっていきたく考えています。ご助力のほど宜しくお願ひいたします。



呼吸器内科 島津 葉月

<消化器内科>

平成 29 年 4 月より大阪市立十三市民病院消化器内科のレジデントとして赴任しました、中内脩介と申します。

平成 25 年に関西医科大学を卒業し、初期研修は神戸大学医学部附属病院(たすきがけコース)で行い、主に消化器内科以外の診療科をローテートし、知識の習得に努めました。

平成 27 年度からは消化器内科レジデントとして兵庫県の三田市民病院で勤務し、救急診療、緊急内視鏡検査、一般的な内視鏡検査・治療、緩和医療など幅広く経験して参りました。これまで経験することが少なかった炎症性腸疾患、肝疾患を含め幅広く携わっていきたくと思ひます。まだまだ未熟な身ではありますが、地域の皆様に貢献できるように頑張りますので何卒よろしくお願ひ致します。



消化器内科 中内 脩介

<看護部>

初めまして。このたび4月1日から十三市民病院看護部長として赴任いたしました小砂見恵子と申します。

今まで小児保健センター、総合医療センター、北市民病院、住吉市民病院と勤務してまいりましたが、十三市民病院は、この度が初めてとなります。

市民に信頼され地域に貢献する病院という当院の理念に基づいて、看護部では、人間味あふれる温かな医療が提供できるよう一人ひとりのニーズにあった心の通う看護が提供できる看護職員を育成しています。



看護部長 小砂見 恵子

総合医療センターから転勤して思うことは、十三市民病院は、「顔の見える関係性」でコミュニケーションの輪を広げることができるということです。このような顔の見える関係性を最大限に活用して最大人数である看護職が中心となり、職種間でのコミュニケーションの輪を広げ、患者・家族の皆様に「十三市民病院に来てよかった」と満足していただけるような看護を提供してまいります。

また、認定看護師、その他の有資格者の専門的知識・技術を活かし今後ますます患者相談や看護外来を充実し、患者サービスの向上に取り組んでいきたいと考えております。

思いやりのある心あたたかな看護を実践して患者・家族の皆様の期待に応えられるよう努めていきたいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

十三市民病院トピックセミナー

6月7日(水)18時～20時 すかいルーム

○内視鏡によるH. Pylori未・現・既感染の鑑別診断と胃癌リスク評価

演者:加古川中央市民病院 副院長 寺尾 秀一 先生

○消化器疾患の変遷 ～逆流性食道炎に対するポノプラザンへの期待～

演者:大阪市立大学大学院医学研究科消化器内科学 教授 藤原 靖弘 先生

地域医療連携室

直通電話：06-6150-8067

直通 FAX：06-6150-8686

編集

大阪市立十三市民病院

地域医療連携室

〒532-0034

大阪市淀川区野中北 2-12-27

代表電話：06-6150-8000